

平成26年（2014年）1月1日発行

第5回エコ大学ランキング 私立大学第1位・全国総合第3位 CO₂削減、自然エネルギー導入などが高評価

「エコ大学ランキング」はNPO法人エコ・リーグが毎年夏期に全国約750校の大学を対象に実施する「大学における環境対策等に関する全国調査」に基づき、各大学の省エネなどの環境対策の取り組み状況を評価するものである。今回のランキング結果において本学は、「自然エネルギー導入率」部門で第1位、「CO₂削減率」部門で第3位、「環境マネジメント」部門で第2位になるなど、複数の部門において高い評価を得た。



本学は2001年にISO14001の認証を取得して以来、「環境推進事務局」を中心として、学生環境推進委員会とも連携しながら全学あげて環境保全活動を進めてきた。今回の入賞は、こうした継続的な省エネ対策や自然エネルギー導入、長期的なビジョンを持った本学の環境マネジメント体制が高く評価されたものである。昨年の全国総合第1位をはじめ、初参加の第2回以来、毎年上位入賞を果たしている。

表彰式は12月14日(土)に東京ビッグサイトで行われ、本学からは波多野学長、学生環境推進委員会の鈴木委員長、久保塚前委員長らが出席した。

昨年の全国総合第1位に続き、毎年上位入賞中！

年頭の辞

工学の未来は 君たちの双肩に

新しい年を迎えるにあたり、日本工業大学は、何を指すのか。その志をお話し、新たな一歩を踏み出したいと思います。東日本大震災では、15800人余の方が亡くなり、26000人余の方が未だ行方不明です。原発事故により、住み慣れた土地を離れたままの方も少なくありません。除染も十分に進んでいません。この未曾有の災害を、自らに突きつけられた問題として、真摯に向き合っなくてはなりません。とくに工学を専門とする私たちは、自らの力で何ができるかを、考え続け、行動に移さなければなりません。

私たちに何ができるのか。20世紀の工学は、すべての人を幸せにすることを目指し、日々進化を遂げてきました。しかし、その過程で、大切なことを見落としてしまいました。生活水準の格差が増大し、「ごり世代」と揶揄されるように、若者は明日への希望や大きな志がもてなくなったと言われます。

でも、私は本学の学生と日々生活を共にするなかで、そんな絶望的な感想はもっていません。つくりたいものがあって、就きたい仕事があって本学を目指した学生諸君の情熱を、肌で感じる毎日です。先日、青木豊彦さんという、東大阪の町工場の社長さんのお話を聞く機会がありました。東大阪から人工衛星を飛ばすプロジェクトで、中心的役割を果たされた方です。2009年に「まいどー号」の打ち上げに成功しました。そのお話をなかで感動したのは「航空宇宙産業は中



学長
波多野 純

年頭所感

大学50周年に向けて



理事長
柳澤 章

また、キャンパスにおいては、50周年に向けて新たに生まれ変わる構想を描いています。エンジニアとしての感性と豊かな人間性を育む環境としての場づくりを注ぎます。

振り返れば、私が助手として勤務したのが開学2年目のことでした。当時は空っ風に砂埃が舞うキャンパスで、今日の満開の桜、燃え盛る新緑、色とりどりの紅葉という四季の風景からは想像すらできないところから日本工業大学は出発しました。

過去と未来に思いを馳せることは、現在をより深くとらえる有効な方法ではないでしょうか。経済成長の中にあった1967年と今日とは時代環境も技術を取り巻く状況も大きく異なります。同時に、変わることもなく技術者に求められていることもあるはず。遠近感をもって、目指してきたこと、出来たこと、未だ届かないことについて学園の関係者が共有することは、何よりも本学園で学ぶ人々のために、よりよい解を導き得るものとなることでしょう。本年も宜しく御願い申し上げます。

昨夏、理事長に就任し、今新たな年を迎え、いよいよ本格的に学園の発展に向けた取り組みを進めてまいります。その大きな一歩が、3年後に控えた大学の50周年でありましょう。

日本工業大学は1967年に開学し、2017年にその歩みは半世紀を刻むことになります。建学の精神は「真理の探究に努めるとともに、工学理論を現場の技術に直結しうる能力」ではじまり「建設的で実践的な社会人を育成する」と謳っています。大学40周年に当たる学園創立100周年では、環境マインドの醸成を加えた「日本工業大学綱領」を定め、実工学教育の名のもと、高いエンジニアマインドを持った人材を産業界に送り、社会の発展に大きく貢献していきます。

このような輝かしい伝統をさらに発展させ、また変えるべきものに対しては果敢に挑むことが、歴史を切り拓くためには必要です。大学の教育・研究においては、波多野学長の「尽力で充実が図られております。それらを学園として、財務、組織面でしっかりとバックアップしていきます。」

平成26年度入試日程

工学部 機械工学科／ものづくり環境学科／創造システム工学科／電気電子工学科／情報工学科／建築学科／生活環境デザイン学科

入試種別	日 程	
特別奨学生入試 [筆記試験、調査書および面接による選考]	出願期間	1/6 (月)～1/24 (金)
	試験日と試験会場	1/31 (金)～2/2 (日)のうち、1日を選択して受験。
	合格発表	2/8 (土)
一般入試	第 2 期	
	出願期間	1/6 (月)～1/24 (金)
	試験日	1/31 (金) 本学・郡山・水戸・高崎・千葉・東京・静岡 2/1 (土) 本学・仙台・東京・新横浜・新潟・長野・金沢 2/2 (日) 本学・宇都宮・柏・東京
	合格発表	2/8 (土)
センター利用入試	出願期間	1/6 (月)～2/3 (月)
	試験日	2/3 (月)～2/14 (金)
	合格発表	2/17 (月)～3/5 (水)

●各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。

【入試チェックポイント】

- ①一年次の学費半額免除！入学手続き締切日は3/11 (火)まで。【特別奨学生入試 第2期 他大学との併願可】
- ②入試奨学金20万円給付！充実の奨学金制度。昨年実績211名！【一般入試とセンター利用入試の成績優秀者】
- ③入学検定料 割引制度 【一般入試・センター利用入試・特別奨学生入試 第2期 複数日受験・複数学科受験など割引】
- ④募集枠拡大でチャンスが増えます！【一般入試・センター利用入試】
- ⑤全国14ヶ所試験会場 【一般入試】
- ⑥2月・3月に受験できます 【一般入試・センター利用入試・AO入試】

募集要項（願書）のご請求およびお問い合わせ先
TEL 0120-250-267（入試室） URL <http://www.nit.ac.jp/> E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集（日本工業大学大学院 社会人特別選抜）

◆大学院工学研究科

博士前期課程 *環境共生システム工学専攻 *機械システム工学専攻 *電子情報メディア工学専攻 *建築デザイン工学専攻
博士後期課程 *機械工学専攻 *電気工学専攻 *建築学専攻 *システム工学専攻 *情報工学専攻

■平成26年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	日 程			
	出願期間	面接試験	合格発表	手続締切
二次募集	平成26年2月5日(水)～2月12日(水)	2月24日(月)	3月5日(水)	平成26年3月11日(火)

お問合せ先：教務部教務課 大学院入試係 TEL 0480-33-7507 URL <http://www.nit.ac.jp/>

日本工業大学 専門職大学院（大学院技術経営研究科技術経営専攻）

中小企業技術経営コース／プロジェクトマネジメントコース／新事業創造・起業コース

働きながら学べる専門職大学院 第10期生 募集！

■平成26年度 専門職大学院 入試日程

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切
第2回募集	1月6日(月)～1月14日(火)	1月18日(土)	1月23日(木)	2月3日(月)
第3回募集	2月12日(水)～2月18日(火)	2月22日(土)	2月27日(木)	3月10日(月)

願書のご請求およびお問い合わせ先：
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 日本工業大学 専門職大学院
TEL: 03-3511-7591 FAX: 03-3511-7594

彩の国連携力育成プロジェクト講演会 ケア環境の一要素としての空間とその役割

11月30日(土)、「彩の国連携力育成プロジェクト」の一環として、埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学と本学の4大学主催の講演会が、本学LCセンター・マルチメディア教室で開催された。

同プロジェクトは少子高齢社会を支えるために



石井氏(右)と勝木准教授の対談

は専門的知識・技術に加え、多職種と連携する資質を持つ人材が必要との認識から、専門職連携教育(IPE)を開発し、推進することを目的とする。現在、本学からは生活環境デザイン学科が中心となって参画しているが、保健医療福祉分野を中心に実施されてきたIPEに建築分野が加わるのは世界的にも先駆的である。本講演会はこの新しい試みの意義と可能性を考えるために企画され、東北工業大学建築学科教授・石井敏氏を講師に迎え「ケア環境の一要素としての空間とその役割」と題して実施された。当日は4大学の教職員・学生のほか、医療・福祉施設関係者も来場。石井氏の講演を通じ、ケアも空間も、人の暮らしを支える環境の一要素であり、分かち難いという理解を共有した。

講演会に引き続き、W2棟で同プロジェクト担当者を中心とするテーブルディスカッションが実施された。聴衆からも積極的な発言があり、IPEに建築分野が加わる意義について確認する貴重な機会となった。

■**節電への取り組み**
昨年に引き続き、行った活動①教室を除く照明器具の電源解線・スイッチの使用制限シール貼り(照明電力30%削減目標)

②外灯の間引き点灯③節電スターの掲示④空調の中間期完全停止⑤外気温度による空調運転制御⑥棟別に30分間の内5分間の空調遠隔停止(夏場の使用ピーク電力対策・使用量削減)
■**施設設備の省エネ改善**
①LCセンター照明LEDへ更新②W2棟新築に伴い照明のLED化工事③W10棟5・6階高効率空調機へ更新④体育館水銀灯からLEDへ更新⑤16号館水銀灯からLEDへ更新⑥9号館高効率照明へ更新

■**環境分野研究奨励助成金制度による研究の推進と実践**
①サクラ落葉の堆肥化への挑戦(創造システム工学科准教授 佐野健二)
②大気汚染状況と大気透過率との関係調査(共通

No.	監視・測定項目	進捗状況・実施記録(半期のまとめ)	検証(達成率等)	推進担当者(記載者)
①	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成するための環境教育プログラムの策定	環境特別講演会の企画・実施(H24年1月19日)間接影響評価に関する検討 学生にインセンティブを与える表彰制度の検討 環境教育検討部会開催	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
②	持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高級科学技術者の育成	環境コア科目「地球環境と人間社会」(春学期)、「環境と工学・工業社会」(秋学期)を実施 実験系環境科目「環境化学基礎実験」(春学期)、「環境化学応用実験」(秋学期)の実施	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
③	体験的環境教育の推進	エコ・ミュージアムの推進の継続	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
④	環境に関する研究の推進	H24年度環境分野研究奨励助成金 研究機関終了 H25年度環境分野研究奨励助成金 公募・採択(6件)	○	環境教育検討部会
⑤	環境コミュニケーションの推進(環境関連情報の発信拠点としての役割と環境マインドの醸成)	第5回エコ大学ランキング アンケート調査提出 9月28日 エコプロダクツ展2012への出展・エコプロダクツ展2013への出展準備 エコロジープレスNo13 WEB発行(3月)・冊子発行(5月)	○	環境推進事務局
⑥	持続的発展が可能な社会の構築にむけた社会・地域との連携、行動の推進	環境施設見学 6月29日 三大学交流会(獨協大学・跡見学園女子大学) 60名 7月24日 東埼玉資源環境組合安全衛生委員会 28名 8月6日 タイ・ラジャマンガラ工科大学を構成する9大学の理事長、学長、副学長一行 27名 8月6日 春日部青年会議所 パサディナの学生、他 25名 9月6日 熊谷工業高等学校 40名	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
⑦	環境教育(学生環境推進委員会への支援とコミュニケーション)	本年度は「第4回 エコ大学ランキング」で総合1位の栄に浴し、長年の環境活動への評価がなされたという思いと同時に、これを機に現活動の更なる飛躍と、新たな取り組みの実現に向けて協力していきたい	○	学生環境推進連携部会
⑧	電力使用量の削減	基準値(H17-19年度平均値:9,159,313kWh) 目標値は基準値10%削減(8,243,381kWh) 実績6,962,658kWh 24.0%削減	○	施設環境管理課
⑨	ガス使用量の削減	基準値(H17-19年度平均値:697,045m ³) 目標値は基準値の10%削減(627,341m ³) 実績613,467m ³ 12.0%削減	○	施設環境管理課
⑩	上水使用量の削減	目標:前年実績の1%削減(前年実績37,222m ³) 目標値36,850m ³ 実績40,755m ³ 9.5%増加	×	施設環境管理課
⑪	紙使用量の削減	目標:前年実績の1%削減(前年実績4,335,300枚) 目標値4,291,947枚 実績4,386,300枚 1.2%増加	×	環境推進事務局
⑫	廃棄物の削減・適正管理	目標:前年実績の1%削減(前年実績167,230kg) 目標値165,558kg 実績166,552kg 0.4%削減	×	環境推進事務局
⑬	緑地整備・保全	秋期の定期剪定実施 後援会退任理事による記念樹の植樹 8月北門、9月体育館周辺の樹木整備 年間計画に基づき、落葉清掃・芝生の管理等実施	○	施設環境管理課
⑭	グリーン調達の積極的な推進	目標:事務用品のグリーン調達の推進(WEB:たのめーる) 金額:一般7,556,472円、エコ6,585,750円(調達率46.57%) 個数:一般3,700個、エコ4,316個(調達率53.84%) たのめーるはNITクリエイトが継続して監視し、データ取得について大塚商会と抽出方法について討議を行った	○	財務部 NITクリエイト 環境推進事務局
⑮	安全・環境安全な化学物質の使用・保有管理及び化学廃棄物の保有・排出管理へ向けての改良	10月~3月の活動 化学物質取扱い講習会開催、特定非営利活動法人(NPO)教育研究機関化学物質管理ネットワーク打合せ、「薬品管理システム導入」システム管理者向け説明会実施、学内報/858号「化学物質を保有している方へのお知らせ」発行、第1回化学物質管理検討部会開催、「化学物質管理システム」導入アンケート(PC環境)調査3月19日メール送信 4月~9月の活動 第2回化学物質管理検討部会開催、化学物質管理検討部会 内部監査 是正処置2件 「CRIS」薬品管理予行演習、一般ユーザー向け「CRIS」講習会 1.5時間 計4回、日本工業大学衛生委員会設置、化学物質管理ソフト「CRIS」用データを取り込み、化学物質管理ソフト「CRIS」用パソコン設置開始、第3回化学物質管理検討部会開催、高圧ガス保有量調査準備	○	化学物質管理検討部会
⑯	エネルギー管理標準による適正使用と法、安全管理、省エネルギー推進	最大電力値・ガス消費最大値・最高気温推移観察 節電ポスター(冬・夏)配布実施 CO ₂ 排出量 第三者機関認証実施 H24・H25年度埼玉県地球温暖化対策計画書作成提出(温対法) H25年度エネルギー定期報告書作成提出(省エネ法) エネルギー使用量・料金について検討実施。東京電力契約電力見直し検討実施	○	エネルギー使用管理部会
⑰	教育・研究施設等の効率的・効果的活用及び管理・運営	施設巡視実施 H24年11月28日(水) 情報工学系部門(指摘件数24件) H25年5月28日(火) 共通教育系部門(指摘件数4件)	○	環境管理責任者
⑱	労働安全衛生法に基づく安全衛生の向上	H25年1月 防災備蓄倉庫新設 H25年7月 衛生委員会の設置 (防火防災組織及び化学物質管理検討部会と連携をとり活動する)	○	環境管理責任者

専門職大学院だより

価値創造型経営を実現する

大学院技術経営研究科・教授 水澤直哉

10月12日(土)、学士会館に於いて「熱血経営セミナー」を開催した。当大学院主催の第五回MOTシンポジウムの一環で、今回は私単独での実施である。海外事業を数多く立ち上げた国際経営の実績と、企業経営幹部育成に長年携わってきた経験に基づき、双方向なやり取りを大切に、受講者参加型の展開とした。テーマは「価値創造型経営の実現に向けて」

と題し、徹底した顧客視点で事業を推進する経営感覚を磨き上げ、事業変革の礎として頂く事を目的とした。受講者の反応は、総じて「大いなる刺激を受けた」というもので、一定の成果を残せたものと思量する。技術思考の強い中堅・中小企業に於いては、マーケティングの本質的なものの見方・考え方を経営の意思決定や課題解決に活かす事が肝要と考える。と言

うのも「価値創造戦略の立案と展開」こそが、事業成長の「決め手」の一つとなっているからである。時は、変化・変革の時代である。その特徴を経営的視点から述べれば、①競争相手がどこから現れるか判らない、②お客様から厳しく選別の目を向けられる、時代と表現できる。しかし「ある日突然代替技術が」という言い訳をされる企業が多い。実は、数年前か

ら、マーケットから「過去の延長線上では顧客のハートを射止め続ける事は難しいですよ」と警告信号が出ていたのである。寧ろ、それを受け止めていかなかった企業姿勢こそが、事業の核心的な失敗の原因なのだ。顧客の本音の進化のスピードの方が、企業内部の意識変革のスピードよりも早い時代に突入している。従って、顧客欲求の本音の代弁者になる飽くなき努力と「Insider-out」から「Outside-in」の発想転換で事業展開する事が、変革型経営リー

専門職大学院

オープンキャンパス

日時

2月8日(土)

13:00

17:00

会場

日本工業大学

神田キャンパス

説明会、模擬授業、

パネルディスカッションなど

◆お申し込み、お問い合わせは・・・

日本工業大学 専門職大学院

http://mot.nit.ac.jp/

TEL. 03-3511-7591

FAX. 03-3511-7594

E-mail mot@kanda.nit.ac.jp

電池は、地球温暖化防止に貢献できるのか」とい

最初の講演は「燃料電池は、地球温暖化防止に貢献できるのか」とい

に貢献できるのか」とい

に貢献できるのか」とい

に貢献できるのか」とい

し、新入生に無償譲渡

し、新入生に無償譲渡

し、新入生に無償譲渡

し、新入生に無償譲渡

し、新入生に無償譲渡

し、新入生に無償譲渡



木村氏(左)と中嶋氏によるパネルディスカッション

第45回若杉祭開催報告

ライブでは、新体育館で1500人が熱狂

第45回若杉祭が11月2日(土)から4日(月)まで開催された。今年のテーマは「LINK」。このテーマは、全ての人が繋がって、若杉祭を盛り上げ、楽しんでいただきたいという意味が込められていた。

今回も多くの団体が参加し、また毎年好評のイベント企画も、盲導犬協会デモンストレーションや若手シンガー「chay」のライブ、人気アニメ声優「伊藤かな恵」のトークショー、更に若杉祭最大のイベントである

「秋のからっ風こんさあと」が開催された。本年は日本のみならずアメリカなどにおいても非常に高い人気を誇る「清水翔太」を招きライブが行なわれ、会場となった改修工事の終わった新しい体育館には、1,500人近い観客が訪れ、熱気と興奮で大いに盛り上がった。その他、初日に第14回ホームカミングデー、2日目に恒例となっている建築設計競技表彰式が行われ、大成功のうちに幕を閉じた。



上段：仮装行列、音楽サークルのライブ、模擬店の様子 下段左：建築設計競技表彰式 下段中・右：ホームカミングデー見学会と懇親会

学生自治会中央執行委員会 委員長就任挨拶

皆さんと協力して、思い出に残る大学にしていきたい。



明けてましておめでとうございます。新しい年を迎え心機一転、様々な思いを胸に、この1年が皆さんにとって希望あるものになると思います。

この度、第46代学生自治会中央執行委員会委員長に就任いたしました、青木優幸と申します。

私がこの大学に入学して早3年が経とうとしています。入学当時はこれからの大学生活に心躍らせ、新しいことをやってみようと考えていました。その時目にとまったのが中央執行委員会です。今まで経験したことのない挑戦だったので、不慣れなことが多く、失敗の連続でした。そうした中、

建築学科3年 青木 優幸

(栃木県立宇都宮工業高校出身)

今こうして委員長という大役を担うことができるのは、他ならぬ先輩たちの指導のおかげです。

これから私は、中央執行委員会委員長として1年間活動していきます。しかし、私一人がどれだけ努力しても、結果は小さなものになりかねません。皆さんが充実した大学生活を送る為にもまずは、自治会に目を向けてください。そして皆さんの声を聞かせてください。その声が私たちの力となり、大きな結果として、より良い大学生活につながるはずです。

最後に、これからの大学全体を盛り上げていくために、皆さんの意見一つひとつに添えていき、皆さんと一緒に思い出に残るキャンパスライフを作りたいと考えています。

第40回教育改革シンポジウム 本学独自の初年次教育を考える

今回のシンポジウムは、初年次教育の必要性を考え、来年度から実施予定の本学独自の初年次教育の目的と内容について理解をはかることを目的として、10月31日(木)に開催された。

今回のシンポジウムの開催の背景には、大学教育の質的転換が、大学改革実行プランの重要課題として叫ばれていることがある。本学だけではな

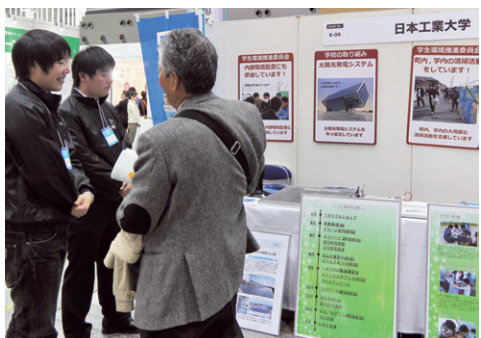
て、適切に伝えるための言語の力」に不十分な学生が結構多いことが問題視され、主体的に学び・考え・行動する人材を育成する大学教育が喫緊の課題として指摘されている。

シンポジウムでは、成田教務部長から、初年次教育の必要性について説明があり、来年度からの初年次教育の具体的な提案があった。8科目からなる学習基盤科目を設定し、これらを選択必修(2科目)とし、本学が目指すべき学びを示した。その後、田中佳子准教

エコプロダクツ2013 学生がブースを企画・運営

12月12日(木)～14日(土)の3日間、東京ビックサイトで開催された。本年度の出展においても「学生環境推進委員会」「ものづくり環境学科」の学生達が本学を代表して、展示ブースの運営を行った。

今回で4度目というところもあり、1年生から出展に携わっている学生も多く、学生の環境活動状況や展示物への質問などにもスムーズに対応ができていた。



展示ブース前で説明を行う学生スタッフ

特に大学内で廃棄となったパソコンを再利用した展示物の製作方法の説明や、本学E21棟のロビーに設置している「リサイクルLEDパネル照明」の具体例を紹介したブースは、来訪者に大変好評であった。

ビジネスプランコンテスト

21件の受賞者を決定

今回は、81件(内グループ47件)、144名の応募があった。9月14日(土)に書類選考通過者による最終のプレゼンテーション審査を実施し、21件の受賞者を決定した。11月1日(金)に表彰式を開催、受賞者に賞状と副賞の贈呈があり、各受賞プランのプレゼンテーションが行われた。第二部の特別講演では、講師の濱俊夫氏から「スズキの環境対応」をテーマにものづくりと環境の講演が行われ、本学学生65名を含む161名が聴講した。



審査結果	氏 名	プラン名
学長賞	小 堀 哲 弥	インテリアコーディネーター仲介事業
NITEC埼玉産学交流会賞	長 島 映 孝 榎 本 海 翼 小 森 美 翼	元工業高校生が送る雑誌～その君！君が主役だ！！～
川口信用金庫賞	野 上 萌 美 大 塚 日 香 橋 本 香 梨 高 橋 瑞 貴	文房具店サイセイプロジェクト
宮代町長賞	野 上 雄 貴 徳 日 上 亮 貴 山 本 裕 亮 佐 々 木 啓 史	みんなが喜ぶ古民家ユースホステル化計画
産学連携起業教育センター長賞	野 上 敦 史 中 田 嘉 津 典 田 中 未 来	乗用車向け広告仲介サービス
審査員特別賞	野 上 敦 史	学生の食生活応援サービス！
奨励賞	田 中 嘉 津 典	Make Myself～あなただけのステッカー～
奨励賞	二ノ宮 菜 摘	カスタムドレス
奨励賞	山 崎 稜 安 鈴 木 誠 之 田 中 誠 之	日本製中古家電製品の東南アジア向け販売・修理事業
奨励賞	窪 千 葉 拓 也	超！！オリジナル彫刻代行
奨励賞	鈴 木 啓 太	NITギャラリー～技術向上計画～
奨励賞	中 三 川 貴 信	パフォーマー派遣サービス
努力賞	鈴 木 宏 太 井 野 利 太 浅 井 幸 史	学生のコンビニ
努力賞	杉 原 琢 朗	そうだ。ついでにタクシーに任せよう。
努力賞	中 島 才 輝 山 本 慎 将 大 村 志 治 浅 山 弘 明	木質系廃棄物を再利用したモノ作り (リサイクル建材)
努力賞	金 一 秀 寿	京野菜を使ったうどん
努力賞	川 前 海 斗 西 田 尚 平	地方と都市を結ぶ移動販売車
努力賞	田 上 雅 人	イスラム教徒を対象としたハラール食品流通サイト
努力賞		学校と学校同士を結ぶソーシャルネットワーク

就職支援情報

今年度の活動は、いよいよ終盤へ

2014年3月卒業・修了見込み学生の就職活動も終盤にさしかかってきた。

今年度は就職活動の開始時期が12月となつてから2年目となる。景気回復を反映し改善傾向だが、採用企業の本音は「量より質」に変化はない。今年度においては建築・福祉・環境分野の求人が多い。今年度は就職活動の開始時期が12月となつてから2年目となる。景気回復を反映し改善傾向だが、採用企業の本音は「量より質」に変化はない。今年度においては建築・福祉・環境分野の求人が多い。



合同企業説明会

環境である。全国の大学卒業生のうち20%が「不安定雇用」の状態で、そのうち3万人が「ニート」と報道されている。卒業研究の発表を2月に控え、最後の仕事環境である。全国の大学卒業生のうち20%が「不安定雇用」の状態で、そのうち3万人が「ニート」と報道されている。卒業研究の発表を2月に控え、最後の仕事環境である。

支援体制も週1回から2回に増やし相談体制を厚くした。しかしながら、就職への意識が低い者や無い者への支援は非常に難しい。残された時間は少なくなった。今一度自ら奮い立たせて、最後まで頑張してほしい。一人ひとりに対してできる限りの支援をしていく。すぐにも就職支援課の扉をたたいてほしい。



ハローワーク相談員によるアドバイス

一級の料理人としても一時代を画した、**狷介（けんかい）**。不屈の文化人である。▼その著『料理一夕話』には「自分の尊いことを知らないで何が出来ますか」という件がある。このような強固な信念のもと、既成の世の中と差し違え、切り結んで来たのだらう。▼そのような行動から得られた、有り余る自信は、実は火のような自尊心から生まれたに違いない。氏曰く「自己の少年期は貧窮、無学、無位、それがいったい何なのだ。自分には何よりも尊い、自分があるではないからだ。▼感想はいかがか？付いてはいけないという方もおられよう。しかし、自分はダメだ！と、溜息をつくよりは遙かに心地よいことは事実。要は、経験に根ざした生き方が出来るかどうかにかかっているのだ。【信